

平成23年度「生活科教育実践事例集」の刊行にあたって

生活科教育研究部長 河合 恭子

本研究部では、本年度「わくわく・ドキドキが伝わる生活科の創造～豊かな体験や探究活動をとおして～」というテーマで研修を深めてまいりました。

8月の夏季研修会では、玉川大学教職大学院准教授の澤田妙子先生と川崎市総合教育センターの野上美智子先生を講師に迎え、本年度の研究主題にそった講演と「おもちゃづくり」の実技研修を実施し、多くの会員の先生方に参加いただきました。

澤田妙子先生からは、子どもたちが「わくわく・ドキドキする」ためには、教師自身がまず「わくわく・ドキドキする」ことが大切であり、そうでなければ子どもたちに思いを伝えることはできないとの情熱あふれるお話しをいただきました。その後、野上美智子先生のご指導で、会員の先生方と授業に役立つ「おもちゃづくり」に暑さを忘れて夢中になりました。

子どもの優れた表現に気づき、どのように称賛するか、その学習への意欲をどのように高めるか等、授業に役立つ有意義な研修会となりました。

また、11月11日には、関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会茨城大会が牛久市で開催され、牛久市立神谷小学校の授業公開と本市豊浦小学校大友央子先生の実践「気付きを伝え合い、協同的に学ぶ児童の育成」を発表いたしました。

この実践事例集も本研究部の事業として、平成7年度から作成しております。今年度は、南部地区の各小学校が取り組んだ特色ある実践例が掲載されております。今年度を含めると17冊目になります。

本事例集を参考に、自校化するなど有効に活用していただければ幸いです。

各小学校・養護学校において今後、生活科の指導が工夫・改善され、子どもたちにとって楽しく、充実した活動が展開されることによって、生活科の学習をますます好きになる子どもたちが増えることを期待しています。